

ふるさと歴史散歩 187 ～松前史談会レポート～

続中山郷永木探訪 II

建武2(1335)年鎌倉に反朝廷の兵を挙げた足利尊氏は、敗れて九州に下ったが、4カ月後に「建武の新政」に不満を持つ西国の勢力を結集し大軍勢で京を目指した。東上を阻む宮方の新田義貞軍と湊川(神戸市)の戦いで大激戦となった。これに勝利した尊氏は上洛し北朝天皇を立てたが、後醍醐天皇の勢力も強く、以後60年南北朝の戦乱が続く。

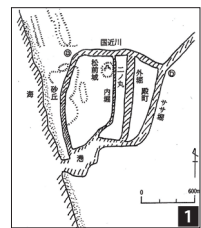
伊予の河野通盛は水軍を率い尊氏軍に合流し、和田岬(神戸市)の戦いで軍功をあげる。通盛配下の大森彦七が湊川の戦いで楠木正成を切腹させたといわれ、砥部・松前の庄を与えられている。この1336年は伊予の宮方主力の土居通増、得能通綱も義貞軍に参戦しており、後に敗死する。

通盛は尊氏から中予一帯の支配権を与えられており、松崎城の戦いは留守勢力の戦いでもあった。拠点を道後湯築城に移した通盛は、周辺の宮方勢力を一掃する戦いを進め、守護の地位が確立されていく。

さて、松崎城から敗走し上灘由並城でさらに落城した合田貞遠の以後の資料はない。合田貞遠あるいは一族が、由並城から地理的に近く土豪勢力の空白地域の永木盆地に逃れ、数代に渡り勢力を強め河野家臣団の地頭として通基の時代を迎えたと考えるのは自然である。

中世合田氏については合田昌文氏の詳細な研究資料があり、松前町の大間・恵久美の現代郷田氏は合田一族の末裔としてその根拠が示されている。(大政典邦記)

参考文献：合田昌文「中世合田氏の跡・改訂版」平成28年自家出版



- 1 山内讓氏による松前城復元図
山内讓「中世瀬戸内海地域史の研究」より転載
- 2 上灘 由並木尊城
宮方の得能通時が築城、一帯を領有していたとも伝えられている



12月のふるさと歴史散歩は、休みます。

問 松前史談会(麻生) ☎ 090-4472-8136

ふるさとライブラリー

本を楽しもう

開館時間 9時30分～19時

問い合わせ ☎ 985-4140

FAX 985-1386

<https://www.masaki-bunka.jp/>

年末年始の休館 28日(月)～1月4日(日)

おはなし会

19日(土)

11時～

文化センター

2階

◆特別展示「サイエンス 科学の目で見た世界」

小説から実用書まで、科学に関する本を集めました。

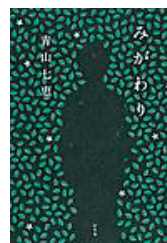


◆不思議なお菓子レシピ サイエンススイーツ 太田さちか・著 / マイルスタッフ・出版 / インプレス・発売

色が層状に重なるカラフルなドリンクや時間が止まったような形のキャラメルなど、目で見て楽しく食べておいしいスイーツレシピがいっぱいです。

◆12月の「新刊紹介」

今月から図書館に新しく入る本を紹介します。



(④から)

▲みがわり 青山七恵・著 / 幻冬舎



▲とわの庭 小川糸・著 / 新潮社



▲文豪の死に様 門賀美央子・著 / 誠文堂新光社



(④から)

▲個人事業主・フリーランスの年金不安をなくす本

奥野文夫・著 / 自由国民社

▲下山の哲学 竹内洋岳・著 / 太郎次郎社エディタス

▲選び放題！鍋レシピ250 主婦の友社・編 / 主婦の友社



1歳です。よろしくね

もり そうご
森 奏互 くん

新立

令和元年12月14日生

(父) 若輝さん (母) 由美子さん

元気に育ってくれてありがとう



2月に1歳になる
お子さん募集

※先着6人

背景が明るい横長の写真(デジタルデータも可。USB不可)を持参するか、メールで送信(本文に右の必要事項を入力)してください。

※受け付け後、掲載可否を返信します。

▶募集期間 12月1日(日)～28日(日)

▶必要事項 ①お子さんの氏名②フリガナ③性別④生年月日⑤父母の氏名⑥メッセージ(25文字程度)⑦住所⑧電話番号
☎総務課広報広聴係 ☎ 985-4132
メール 333koho.j@town.masaki.ehime.jp

レンコンとクルミの みそきんぴら



【エネルギー 112kcal (1人当たり)】

・作り方・

- 1 レンコンは、皮をむいて3～4mm幅のいちょう切りにし、さっと水にさらす。
- 2 フライパンにごま油と輪切りにして種を除いた唐辛子を入れ、水気を切った1とくるみを入れて炒める。
- 3 火が通ったらAを加え、からめる。

●材料● (4人分)

レンコン……………150g
くるみ……………10g
ごま油……………小さじ1
輪切り唐辛子……………少々

A { みそ……………小さじ2
酒……………大さじ1
みりん……………大さじ1
だし汁……………大さじ1・1/3

Point

レンコンやくるみの食感を楽しみ、しっかりかむことができる1品です。副菜として取り入れましょう。